

イベント情報！

農楽里・食楽里・農村散歩

10月25日に鶴岡市(旧羽黒町)の「いで文化記念館」でシンポジウムが開催されます。

東北公益文科大学大学院教授の高谷先生より「羽黒から庄内の魅力を考える ～もうひとつの旅を求めて～」と題し、講演していただく他、鶴岡中央高校の生徒による特別講演(H23 観光甲子園準グランプリ受賞)や高谷先生を含め、(株)出羽庄内地域デザイン代表取締役の小林好雄氏、農家民宿「知憩軒」の長南光氏、庄内映画村(株)顧問の平野克己氏、鶴岡市副市長の山本益生氏によるパネルディスカッションを予定しています。

たくさんの食材を育み、美しい景観が広がる庄内地域。そして新たに映画のロケ地としても感心を集めています。食・映画・景観など、他分野のいいところが結びつければ、より魅力的な庄内に発展できるはず！そのヒントをこのシンポジウムで見つけていただきたいと思います。

入場無料です。興味のある方、ぜひお越しください！！



農楽里・食楽里・農村散歩

講演：『羽黒から庄内の魅力を考える
～もうひとつの旅を求めて～』
講師：高谷 時彦 氏 東北公益文科大学大学院教授

特別出演：鶴岡中央高等学校
H23 観光甲子園準グランプリ受賞!!

10月25日(火)
14:00～16:45

場所：「いで文化記念館」
コンベンションホール
鶴岡市(旧羽黒町)中央公民館2階 TEL:0233-62-4927(1)

入場は無料です

たくさんの食材を育み、美しい景観が広がる庄内地域。そして新たに映画のロケ地としても感心を集めています。食・映画・景観など、他分野のいいところが結びつければ、より魅力的な庄内に発展できるはず！そのヒントをこのシンポジウムで見つけていただきたいと思います。

パネルディスカッション
出席者
高谷時彦氏(東北公益文科大学大学院教授)
小林好雄氏(株式会社出羽庄内地域デザイン代表取締役)
長南光氏(農家民宿「知憩軒」代表)
平野克己氏(庄内映画村(株)顧問)
山本益生氏(鶴岡市副市長)

庄内映画村(株)代表取締役 高谷時彦氏
出羽庄内地域デザイン代表取締役 小林好雄氏
農家民宿「知憩軒」代表 長南光氏
庄内映画村(株)顧問 平野克己氏
鶴岡市副市長 山本益生氏

稲刈りのあとは「でかプリン」！？

参加者からの投稿です。

10月9日(日)、因幡堰土地改良区にて鎌を使った稲刈りと杭掛けが行われました。参加者が70名と多く、作業は速やかでした。

いつもと違ってしたのは、その後のお菓子づくり(プリンデコレーション)ですね。子供用のバケツに作ったプリンに何が入っているかな～？ってクイズがあったのですが、答えは「はえぬきの米粉」。

普通に作るとたわんで壊れますが、米粉を入れることでつぶれず、甘みがでて、舌触りがよい絶妙のプリンでした。(土地改良区で試行錯誤した結果です。)

新米おにぎり、芋煮の他、このようなデザートまでご馳走になり、大人も子供も大満足な半日でした。結果、若干筋肉痛に……。

こうした土地改良区の様々な工夫に頭が下がる思いです。お疲れ様でした。



第11回 羽黒山石段マラソン全国大会

雨にも負けず・・・完走！！(参加者からの投稿)

10月16日(日)、鶴岡市羽黒町で行われた「第11回 羽黒山石段マラソン全国大会」に参加してきました。

エントリー数は過去最高の381人です。(最高齢は72歳)

当日はあいこくの雨でしたが、地元の皆さんと観光客の皆さんの声援を受けて、無事完走しました。

この大会のお勧めは、観光ガイド「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」で、3つ星に選ばれた杉並木を走れること！

午前10時に羽黒山の人鳥居前をスタート。

宿坊街を抜ける4.5キロの登りを走り、国宝五重塔を左手に見ながら、全長1.5キロの石段2446段を三神合祭殿まで駆け上がります。
(ちなみに、五重塔、合祭殿ともミシュラン2つ星です。)

レース中は「なんでこんな思いをして、走ってるんだろう？」と思うのですが、ゴールしたとたん、「あ〜、また来年走ろうっ」と思えるから不思議です。
(実は、この大会はリピーターが多い大会なのです。)

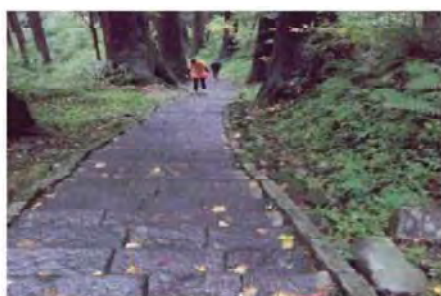
ゴールした後は、地元の庄内柿とあったか〜い芋煮を食べて元気復活！！

合祭殿に来年の参加を誓って、羽黒山を降りました。

来年は、ぜひ参加しましょう。楽しいですから。

最後に、雨の中沿道で応援してくれたみなさん、スタッフのみなさん、ありがとうございました。

来年もよろしくね。



秋号発刊！

農楽里(のらり)

本課ホームページの第85回で農山漁村づくり情報誌の創刊をお知らせしたところですが、この度秋号が発行されました。

庄内に関する内容としては、鶴岡市大鳥の「大鳥タキタロウ村」の紹介や、やまがたの食ということで、遊佐産パプリカとパプリカのお手軽レシピが掲載されています。

フリーマガジンとなっていて、庄内総合支庁ロビーにありますのでご自由にお持ちください。



鶴岡市関川にて

しな織りまつり

10月15日、16日に鶴岡市関川で「しな織りまつり」が開催されました。

催しの内容は、しな織り製品の展示販売、しな織りの体験、しな織り糸づくり作業実演や、地元で採れた赤カブ、とちの実、米、手作りのとち餅、なめこ汁などの販売の他、鶴岡中央高校温海校の太鼓がまつりを盛り上げていました。

地元住民が役割分担し協力して毎年開催されているこのまつりは、伝統工芸品の「しな織り」、関川の人や自然、地元特産物を皆さんに知って頂く良い機会となっています。

地元の方との交流もできるので、行かれたことがない方はぜひ来年足を運んでみてください。

なお、しな織り製品はまつり開催日以外でも「関川しな織りセンター」で購入することができます。まずは手ににとってご覧ください。



大鳥タキタロウ村

東北農政局長賞受賞

国による「平成23年度豊かなむらづくり全国表彰事業」において、「大鳥タキタロウ村」が東北農政局長賞を受賞しました。

この事業は農山漁村におけるむらづくりの優良事例を表彰するもので、昭和54年度から行われています。

10月23日に開催された「秋のきのこ祭り」で村長から受賞の報告をしたところ、参加者から拍手がわきおこりました。

村長の挨拶では、村誕生から9年を迎え、むらづくりへの賛同と協力を本当に感謝しているとの言葉がありました。私もこれからも活動に参加していきたいと思っています。

この日は参加者約90名。栗拾いの後、村で採れたなめこを使ったなめこ汁や栗おこわが入った昼食を頂きました。

午後からグランドゴルフや岩魚釣り、トレッキング、農園活動にわかれて交流を深めました。

今年は栗が豊富に落ちていて、みんな袋いっぱい拾いとでも満足していました。

農園活動では子供達がうれしそうにヤーコンの収穫をしていました。



11月上旬には新そば祭り、2月上旬には冬の雪祭りも予定しています。

参加を希望される方は鶴岡市大鳥自然の家(Tel:0235-55-2946)までお問い合わせください。

大鳥タキタロウ村への行き方はこちら  ⇒ [地図です\(PDF 91.5KB\)](#)

越沢のそば

新そばまつり

11月5日、6日に鶴岡市越沢の「まやのやかた」で新そばまつりが開催されました。入口でそば券を購入して順番に中で食事ができます。混み合っていたので待っている方がいらっしゃいました。皆さん新そばの味を堪能していましたよ。

外のテントでは地元の赤カブ漬けや山菜の粕漬け、とち餅、くるみなどの他、まむし酒が売っていたのでビックリ！！あまりよく見れませんでした…。

去年の参加者は約470名、一昨年は約500名とのことで、まだ行かれたことがない方は一度いらっしゃってみてはいかがでしょうか。

第95回「秋の棚田です」でもご紹介しましたが、近くには越沢の棚田や郷清水という湧き水もありますので是非足を運んでみてくださいね。



参加者からの投稿

2011年11月11日11時11分、庄内赤川土地改良区で、今年の収穫に感謝する「餅つきフェスティバル」が開催されました。

臼と杵で一度に5升の餅をつくという、今ではなかなかお目にかかれない、豪快な餅つきとなりました。

もち米は、鶴岡市菱津産の「ヒメノモチ」。さっそく、「小豆餅」と「雑煮」にいただきました。杵でついただけあって、つるつるで、のどごしが良く、とても美味しいお餅でした。



新そば祭り

地元のそば粉を使って

11月20日、鶴岡市大鳥にある「大鳥タキタロウ村」にて「新そば祭り」が開催されました。参加者約60名で、尺八の演奏やグランドゴルフ、木工クラフトの後、今年収穫された地元のそば粉「でわかおり」100%を使ったなめこそばと板そばが振る舞われました。

午後からは希望者によるそば打ち体験もあり、地元の方が先生となって指導されていました。子供も大人と一緒に粉を混ぜたり、こねたり一生懸命で、将来の先生かな？と期待してしまいました♪

また、17日に仙台で開催された「豊かなむらづくり全国表彰事業東北ブロック表彰式」で、東北農政局長より賞状が授与されましたので、村長から参加者への報告と感謝の気持ちが伝えられました。今後も一層頑張っていきたいとの言葉を頂き、関係者としてとても嬉しく思いました。



【木工クラフト】



【木工クラフト】



【なめこそば】

(右上は生のダイコンに味噌を付けて)



【板そば】



【屋食の様子】



【そば打ち体験】

※次回のイベントは2月上旬予定の雪祭りです。村民の有無に関わらずどなたでも参加できます。希望される方は鶴岡市大鳥自然の家(Tel:0235-55-2946)までご連絡をお願いします。

庄内砂丘地の排水開始

いよいよです

6月23日～25日、6月30日～7月1日、8月17日～18日、9月20日～22日の豪雨及び台風により、鶴岡市七窪地区、酒田市浜中地区等の砂丘畑の約200haで長期間湛水状態が続きました。

今回、農村災害対策整備事業「庄内砂丘地区」の調査計画費により、鶴岡市七窪地区に釜場を設置し、ポンプにより約400m海岸まで排水を行いました。
浸透地からの排水により、約30分でおよそ24m³の排水を確認しました。

今後も応急排水や地下水観測を実施し、来春の営農に支障がないよう実施検討していく予定です。



【9月の鶴岡市七窪の湛水状況】



【9月の酒田市浜中の湛水状況】



【11月下旬応急対策でポンプ排水の準備】



【11月28日ポンプで排水し、
海までの導水状況】

冬水田んぼ

逃げないで・・・！

12月2日、冬の晴れ間に鳥海山がきれいに見えました。

車で幹線道路を走っていると、白鳥が口ばしを泥だらけにしながら餌を食べている水田の様子を色々な場所で見ることができました。

この時期の雨を水田に溜めるのと併せて、化学肥料、化学合成農薬の5割低減にも取り組んで、白鳥など多くの生きものが棲む環境を保全しているところも見かけるようになりました。

今後、雪で水田が覆われるようになると、一日中水のある水田に集まっている白鳥を見ることはできませんが、車を止めたり、人影が見えると白鳥はすぐに遠ざかるのが残念です。

白鳥の着ぐるみで近づくと大丈夫かな・・・？



餌をついばむ白鳥



水を溜めた田んぼ

マップづくり

みんなで作ろう。

12月4日(日)、鶴岡市加茂地区において住民参加のワークショップが開催されました。加茂地区では地元住民が地域外の人を案内できるマップを作成するため、9月18日のまち歩きを参考にどんなマップを作るか意見を出し合いました。

参加者は地元住民の他、東北公益文科大学の先生と生徒、鶴岡市、県が3班にわかれてマップに載せたい内容、雰囲気、タイトルについて話し合い、班ごとに発表しました。

次回はこの意見を反映させた原案を提示し、最終確認を行う予定です。

どんなマップになるかな??



方言カルタとそば打ち体験

因幡堰土地改良区 田んぼの学校

12月11日(日)、因幡堰土地改良区が主催の「収穫感謝祭」が開催されました。

この日はかなり肌寒く、雨も降っていましたが、鶴岡市藤島公民館の中はとってもあったかで、子供たちも元気いっぱい！

まずはじめに酒田方言のカルタ大会。標準語の後に酒田の方言で読み上げます。方言の頭文字のカルタを多く拾えた人が賞品を獲得できます。

子供たちは時々大人に教えてもらいながら必死に探していました。

その後、手打ちそばに挑戦。講師は因幡堰土地改良区の理事長です。

まさかこんなに体力が必要だったとは…。初めて挑戦した私はもちろん筋肉痛(泣)。でも打ち方は別として、打ちたてを各自ゆでて、改良区特製のタレで食べたらこれは美味しい！トッピングはねぎ、大根おろし、鶏肉などで、子供から大人までお腹いっぱいでした。



因幡堰土地改良区の田んぼの学校は、今年度これで終了となりました。来年度参加してみたいという方は改良区までお問い合わせください。

またいろいろな企画があると思いますよ。とても楽しみです♪

来年の干支は龍

オリジナル正月飾り

酒田市松山地域で、正月飾り教室が開催されました。
教室の開催を企画したのは農村環境保全指導員の佐藤正志(さとう・まさし)さんです。

教室には女性10名ほどが参加され、「うさぎの尾っぽグループ」の指導の下で、来年の干支にちなんで龍の形をした正月飾りに挑戦しました。

古代米の藁を使って、縄を編んでいきます。

私も体験しましたが、編みあがった頃には汗をかくほど暖かくなります。

縄が出来たら飾り付けになりますが、全体のバランスを考えたり、縄の形を整えるのに経験とセンスが必要だと感じます。

参加された方々は、手も動きますがそれ以上(?)に口も動かしながら、先生も感心するほどの作品を仕上げられていました。

縄の周りこくつける飾りにも地元産を使うというところがこだわりですね。

日本の生活文化が失われてきていますが、農村の文化と技術、節目毎の行事、そして人々のコミュニケーションなど大切にしたいものが沢山ありますね。



縄ないの様子



縄を整える



会話しながらの作業



飾り付けするもの



完成品

新商品です

干し柿チップ

庄内町狩川にある「風車市場」で新商品となる「干し柿チップ」が販売されています。これは、県の女性や若者が活躍できる新たな産業創出事業を利用して、干し柿の加工に関する研修を行いできあがりました。

YBCラジオでも紹介され、無添加、無着色で自然の甘みですので、ぜひ味わってみてください。



※この事業の補助対象経費は、住民団体等で新たな産業につなげるための調査研究及び商品開発に関する費用や、地域コミュニティ推進を目的としたイベントの企画開発、試行に要する経費などです。

このような事業は県その他、各市町、全農でも支援を行っていますので、お住まいの市町へもお問い合わせください。

加工品フェア

手づくりです。

1月21日(土)、22日(日)に酒田市曙町のAコープみどり店と鶴岡市藤島のAコープ藤島店で「農家が育てた庄内農林水産加工品フェア」が開催されました。下の写真は酒田の様子です。



地場で生産した原料で手づくりの加工品を扱うグループ(酒田では8グループ)がモロヘイヤうどん、漬け物、ジャム、昆布巻き、さしみこんにゃく、米パン、梅干しなどを販売していました。

お客さんは途切れなく来ていて、試食しながら販売者から詳しい説明をうけていました。

購入者にとっては、試食できるのはとてもうれしいですね。

何とんでも”地元のものを使って、しかも手づくり”！

まだ行かれたことがない方は今度ぜひ足を運んでみてください。

地域のマップ完成に向けて

1月22日(日)に鶴岡市加茂地区において地域のマップづくりにおけるワークショップが開催されました。

12月4日に地元の方からどんなマップにしたいか意見を出して頂き、それをもとに原案を提示して、再度追加、修正したい内容の確認やタイトルを決めました。

写真もどれを載せるかなどたくさんの意見が出されていました。



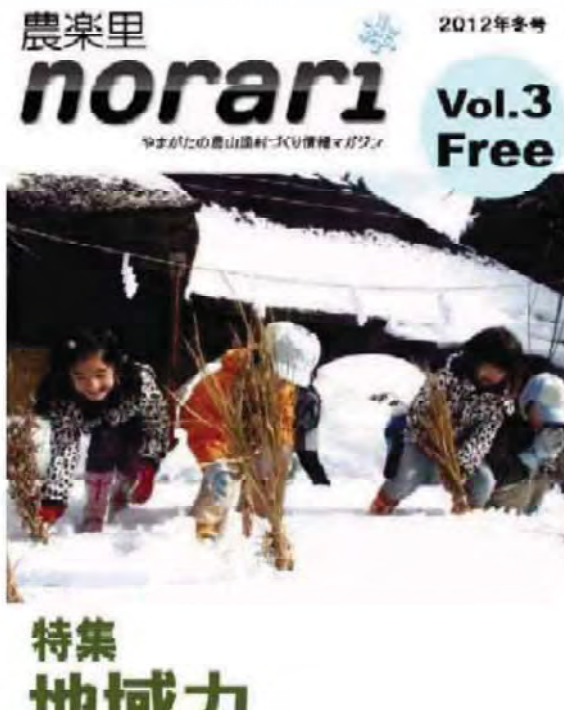
冬号発刊！

農楽里(のらり)

本課ホームページの第104回で農山漁村づくり情報誌'秋号'のお知らせをしたところですが、この度"冬号"が発刊されました。

庄内に関する内容としては、鶴岡市鬼坂峠の「地すべり」に関する記事が掲載されています。

フリーマガジンとなっていて、庄内総合支庁ロビーにありますのでご自由にお持ちください。



大鳥タキタロウ村の活動

2月5日(日)に鶴岡市大鳥の大鳥自然の家において、「タキタロウ村」4大イベントの1つ、冬の雪祭りが開催されました。

内容は、「かんじき」を履いて行う、うさぎ狩り体験の他、もちつき、そり遊び、スノーモービルなどです。



うさぎ狩り体験では「かんじき」の履き方から教わり、歩きながらうさぎの足跡を見つけたりしました。もちつきでは杵と臼を使った本格的なもので、昼にはつきたてをあん餅と汁餅でいただいた他、鴨汁や甘酒なども振る舞われました。

参加してみると、偶然知り合いの人に会えたり、人との新たなつながりが生まれたりします。

「村」について詳しく知りたい、来年イベントに参加してみたいなど、興味がある方はぜひ、鶴岡市大鳥自然の家(電話:0235-55-2946)までお問い合わせください。

NPOから余目第一小学校へ

2月6日(月)余目第一小学校で、6年生が田植えし、NPOが稲刈り(天候不良のため)・自然乾燥をした”めだか米”30kgをNPO家根合生態系保全活動センター・佐藤理事長が小学校に贈呈しました。

代表児童からは、「稲刈りを体験できず残念だったが、農家・農業の大変さを実感することができた。それを噛みしめて味わいたい。」との感謝の言葉がありました。

めだか米は、2月14日(火)の小学校給食で提供される予定。当日は、民生委員15名が2・3・4年生と共に給食を試食します。その際にNPO設立の経緯とこれまでの活動について学習します。



第17回大山新酒・酒蔵まつり

2月11日(土)に鶴岡市大山にて新酒・酒蔵まつりが開催されました。

大山にある4つの酒蔵などをまわるスタンプラリーや、昨年から始まったカクテルパーティーなど、毎年多くの方が訪れています。

下の写真はカクテルパーティーの様子ですが、事前に購入したカクテル券で4種類の日本酒をベースにしたカクテルを飲むことができます。(下にレシピも掲載しています)

会場は暗く雰囲気もあり、それぞれのテーブルに写真のような地元の歴史などの紹介もあり、工夫されていました。

このイベントは例年2月の第2週目に開催されています。日本酒が苦手な人でもカクテルが楽しめるので、興味のある方は参加してみたいはいかがでしょうか。



日本酒カクテルを ご自宅でつくってみませんか? パーティレシピ

雪月華

大山	30ml
アップルパレル (9A200リキュール)	15ml
りんごジュース	15ml
レモンジュース	1tsp (ティースプーン)

(静かなスノースタイル)

大山酒蔵元の
代表的な日本酒で作れます

なでしこ

白梅	25ml
ピーチクリー (濃めリキュール)	15ml
クランベリージュース	20ml
レモンジュース	1tsp (ティースプーン)

青ノハナ

田舎ノ露	30ml
七輪リキュール	15ml
バブルフェタムール (ゆるめリキュール)	5ml
レモンジュース	10ml

フリージア

常夜富士	20ml
スースリキュール (ソフトクールドライリキュール)	10ml
オレンジジュース	30ml
レモンジュース	1tsp (ティースプーン)

美味しい～！！

”めだか米”の試食会

2月14日(火)、先日(6日)NPO家根合生態保全センター・佐藤理事長から庄内町立余目第一小学校へ贈呈された’めだか米’の試食会が行われました。地区の民生委員10名も参加。民生委員の仕事の紹介と、今年度の家根合地区の活動について、感想を述べながら会食を行いました。

校内放送で’めだか米’について紹介され、それに耳を傾けながら、いつもの給食との違いを確かめていました。いつもと食感が違うと感じた児童は約90%(23名中20名)。おいしい、という感想が多かったです。

子どもたちは、今年度の活動を振り返り、にぎやかな給食の時間となりました。

庄内町町報担当者、山形新聞社が取材に訪れていました。

※2月15日付に掲載されました。



雪の中、今年も上演！

2年続けての大雪の中、「雪中芝居」として有名な黒森歌舞伎(県無形民族文化財)の正月公演が、酒田市黒森の日枝神社境内で開催されました。

今年は2月15日と17日の上演。寒気が15日は緩みましたが、17日は強まり雪の舞う中での芝居となりました。ご存知のように野外での観劇で、観客は地元の人たちだけでなく、全国から熱心なファンが訪れるそうです。地元の小学校には「歌舞伎休み」があるとのことで、母親と一緒に見物する小学生もいました。

皆さん防寒対策は万全のようでしたが、体を中から温めるように屋台も立ち並んでいました。香ばしい匂いが一帯に漂い、寒さが一層食欲をそそる、食も欠かせない楽しみの一つになっているようです。



黒森日枝神社参道



歌舞伎上演の幟旗



舞台と観客

心の交流

農村環境保全指導員の研修会

2月28日(火)庄内総合支庁で「心の交流～私たちの招き方～」と題し、指導員の研修会を開催しました。(参加者約100名)

第一部は「村づくり～ゼロからの出発～」と題し、農村環境保全指導員(旧朝日村)であり、今年度農林水産省の「豊かなむらづくり全国表彰」で東北農政局長賞を受賞された「大鳥タキタロウ村」総務企画部長の大滝與一さんと、鶴岡市暮坪の海に見える棚田で農業体験などを行っている暮坪自治会長の奥井厚さんから「暮坪を元気な地域に～地元資源を活用して～」と題して各地域の活動紹介や他地域の人達との交流について話しをしていただきました。

第二部は指導員と各市町担当者による意見交換会を行いました。その中で、活動組織に新しい人を呼び込むためには学校と連携して子供を楽しませながら一緒にやってみようかといった意見や、参加された農地・水の関係者の方からも「行政に言われてやるのではなく、自らリーダーシップをとっていかないといけない、マスコミを使うと宣伝効果が大きい」などといった意見がありました。

この研修会をきっかけに指導員の方の活動を知っていただき、地域でのネットワークを広げていただければと思います。



「メダカライス 純米酒」

新酒お披露目会

庄内町家根合地区で、地元NPOが余目第一小学校と「めだか」などの生態系保全に取り組ながら栽培した「めだか米」が、地元の蔵元でお酒になりました。酒造りは今年で6年目になります。

3月2日、蔵元の母屋の上座敷で新酒がお披露目され、いつもは子供が主役の「めだか米」のイベントですが、今回は大人だけのお楽しみとなりました。

蔵元である佐藤佐治右衛門の佐藤社長から、今年の仕込みについてお話があり、米は豪雨や高温にも影響されず、粒の大きさや堅さも申し分なかったものの、強い寒波で醸造蔵の室温が例年5度のところ0～1度まで下がり、発酵が進まずとても苦労したとのことでした。同じ酵母と水を使っても、毎年同じ酒を造るには大変な熟練が必要なのだそうです。

さて、今年のお酒は例年とおりの仕上がりでした。お披露目されたお酒は、火入れ前の原酒で16.8度とのこと。仕込み水も出していただき、飲むと悪酔いしないと教えてもらいました。交互に飲んでみましたが、あまりの旨さに量が進んでしまい、やはり飲み過ぎてしまいました。



外観も趣のある酒蔵



築100年を越える母屋の玄関



木槽搾りと営業の岡部さん



「塩蔵ワラビの粕汁」もちろん蔵元の酒粕

完成しました

「加茂そぞろ歩き」

3月25日(日)に加茂コミュニティーセンターで地元住民に対するマップの完成報告と「マップを活かした地域づくり」と題して東北公益文科大学の渡辺先生から他地区の事例紹介などをして頂きました。

その後、地域でのマップの活用方法、配置場所について話し合いを行いました。

マップはA3判両面カラー刷り(ポケットサイズ)で、昔の名残を感じさせる蔵や邸宅、隠れた小路、神社や寺、季節の祭事など写真や解説文付きで掲載されています。

今後は地域の魅力を伝える案内人の育成など、マップの活用方法をつめていく予定です。

また、今年度夏に太漁フェスティバルが予定されているので、マップを手に加茂のまち中にも足を運んでいただけたらうれしいです。

